# 滋賀森林インストラクター会

会報・第 17 号　　2015 年 12 月 26 日

今年は柿の大豊作_実の重さで枝が折れています（石山にて 2015.11.27）

目　次


| | | |
|---|---|---|
| 1．緑の少年団　指導者研修会 | 下川　茂<br>小西　民人 | 2~4 頁 |
| 2．2015「森づくり交流会」 | 梶谷　栄治 | 5 頁 |
| 3．今年度の定例研修会の総括 | 小西　民人 | 6~7 頁 |
| 4．緑の少年団西部南部地区交流会 | 高橋　優 | 8 頁 |

# ～緑の少年団指導者研修会～

昨年度に引き続き滋賀県緑化推進会から委託を受け、「緑の少年団指導者研修会」の滋賀会会員が講師を務めています。今年度の研修は樹木観察と木工クラフトを行うプログラムが組まれていました。県内各地区で計７回の緑の少年団指導者研修会が開催され、以下の滋賀会会員が講師として派遣されました。

| 開催日 | 開催場所 | 滋賀会講師 |
|---|---|---|
| ７月２９日(水) | 湖北地区：きゃんせの森 | 下川茂、小西民人 |
| ８月　１日(土) | 西部南部地区：林業普及センター | 佐々木建雄、高橋優 |
| ８月　４日(火) | 高島地区：ビラデスト今津 | 梶谷栄治、清水徹男 |
| ８月２５日(火) | 湖北地区：高山キャンプ場 | 小西民人、中川仁男 |
| ９月　３日(木) | 甲賀地区：みなくちこどもの森 | 下川茂、佐々木建雄 |
| ９月　６日(日) | 中部地区：河辺いきものの森 | 梶谷栄治、小西民人、満井千鶴人、関澤友規子 |
| ９月　７日(月) | 中部地区：高取山ふれあい公園 | 高橋優 |

提出していただいた報告書から抜粋し「みなくちこどもの森」と「河辺いきものの森」で開催した研修会を紹介します。

## 「みなくちこどもの森」研修会 （9月3日 13:00-16:00）

**下川　茂**

樹木観察では、園内に生育する５種類の「どんぐりのなる木」（カシワ・アラカシ・シラカシ・クヌギ等）の葉を配布し、用意した「葉とどんぐり検索表」をもとに受講者が特徴等を調べた後で、見分け方を指導した。雨天の為、自然館駐車場周囲の樹木のみを観察しながら、実物を通して、樹木の巧妙な戦略（防御と子孫を増やす手だて）を解説した。

木工クラフトでは、配付資料をもとに木工クラフトのねらいや留意点を説明後に、作品事例を参照にしながら各自が作品づくりを行う。作品は当初の模倣段階から、次第にオリジナリティを発揮した独創的で楽しい作品が次々と生み出された。

受講者の反応は、雨天のため屋外での樹木観察が傘をさしながらの活動となり参加者の意欲がそがれた感が否めない。雨(荒)天時の代替えプログラムを準備する必要があると痛感した。今後の研修会の計画段階の課題である。一方、木工クラフト研修は受講者が十分に達成感を感じられたのではないかと思われる。今後の少年団活動に取り入れたいという声が複数の受講者から聞こえたことは喜ばしい限りである。

## 「河辺いきものの森」研修会 （9月6日 13:00-16:00）

**小西　民人**

今年度では最大の１６名の少年団指導者が参加した「河辺いきものの森」研修会で、滋賀会から派遣した講師陣も４名で対応した。

（研修内容）

最初、ドングリ検索表を配付し、ドングリの見分け方を説明した。その後、参加者を８人ずつの 2 組に分け、それぞれの組に常緑のドングリ 4 種（アラカシ・シラカシ・ウラジロガシ・アカガシ）、落葉のドングリ 4 種（クヌギ・アベマキ・コナラ・ナラガシワ）計 8 種の枝を 1 種について 2 本準備したものをかき混ぜ、それを参加者で相談して分別してもらった。その後、分けた根拠を尋ねながら見分け方を指導した。また、カシワの葉、ブナの葉、スギ（裏スギ・表スギ）などについても説明した。

次に、外に出て一番短いコースを歩いて植物観察を行った。ヤブニッケイ（におい）、クスノキ（におい、ダニ袋）、

ゴンズイ（二色効果）、ヤマハゼ（実、かぶれ）、アベマキの虫こぶ、カゴノキ（樹皮）、林冠トレイルからの種々の樹木の林冠の様子など、実物を通して植物の生き残るための戦略を中心に説明した。

後半は作品例を参考にクラフト作り。道具の取り扱い方法など、制作に取り掛かる前の注意事項を確認した上で、実際に一人 1 つの作品を仕上げてもらった。

受講したみなさん、作品例を参考に黙々と作業されていた。なぜか女性にユニークな立体の作品が多く、創意工夫がすばらしかった。植物観察という「受け身」から、自分で作る「能動」への場面転換という点でよい取り組みだったと思う。

材料の入手方法や講師の招聘などの問い合わせがあり、少年団の活動の広がりに繋がる研修会だった。また、昆虫や水生生物の話、山菜の話やキャンプの指導法などさまざまな質問、要望があり、今後の課題となる。

2015-7-29 きゃんせの森

2015-8-01 林業普及センター

2015-8-04 ビラデスト今津

2015-8-25 高山キャンプ場

# 滋賀主催「森づくり交流会」に 4200 人

## ～滋賀会のきのこ汁今年も大好評～

**梶谷　栄治**

森づくり交流会「ふれあいフェスタ２０１５」は、これからの滋賀の森づくりに、県民がこれまで以上に理解を深め、関心を高めるための機会となるように。また、琵琶湖森林づくり事業を進めるためにも、県産の木材・竹材利用の推進や、森林づくり活動に参加するきっかけとなるよう、気運を高める場となるよう、毎年県が中心となり毎年実施されています。

今年はその１０回目、１０月３日(日) 長浜市豊公園で開催されました。この催しに、県内各地から森林に関わる団体など４８団体が参加し、それぞれのテントブースで森に因んだ展示、物品の販売、森や木材に触れる体験などを提供していました。

中央ステージでは、滋賀県立大学音楽部による演奏で、にぎやかに開幕し、二酸化炭素削減標語コンクールや、森づくり活動ＰＲ、キャラクターショーなど開演されていました。また会場のあちこちで、アルプスホルンの演奏、チエンソーアート実演、大道芸のパフォーマンスなど実演しており、訪れた人を楽しませてくれました。

当日は素晴らしい天気に恵まれ、これまで森林・林業にあまり関心がなかったり、情報にふれる機会が少ない親子連れや、森林づくりを担う若者など、県内各地から４２００人（主催者調べ）が会場に姿を見せたということです。

私達滋賀森林インストラクターのテントには、もっと滋賀の森を知ってもらおうと、森林インストラクター協会編「日本の森１００」の中から滋賀の森３カ所の紹介、森の写真ドングリの標本、等を展示し、多くのみなさんが滋賀会のテントに来てくれました。毎年好評の、森林インストラクターおすすめの「きのこ汁」はきのこも豊富に入り、すっかり人気となり、今年も完売しました。

滋賀会出展テント　と　きのこ汁調理風景

# 今年度の定例研修会を総括して

小西　民人

今年度は次のように４回の研修会を実施しました。

①　５月３日　長浜市余呉・高時川上流域　参加者８名（うち１名一般）

ユキバタツバキ

スミレサイシン

トチノキ芽生え

②　７月５日　竜王町鳴谷池周辺　　参加者８名（うち２名京都会）

ヒモヅル

アカメガシワ

シャシャンボ

③　9月13日　高島市八ツ淵の滝方面　参加者9名（うち3名一般）

ナンキンナナカマド

ツチアケビ

タマゴタケ

④11月1日　栗東市金勝アルプス方面　参加者5名（うち1名一般）

ガンピの繊維

天狗岩と琵琶湖・比叡山

以上のように、湖北、湖東、湖西、湖南の順に4地域での研修会でした。春の湖北では春植物や日本海要素の植物群を、夏の湖東では花崗岩地に多いアカマツ林特有の樹木や周辺の湿地に見られる湿生の植物を、秋の湖西では川沿いで見られる樹木やキノコを、晩秋の湖南では花崗岩の崩壊地や巨岩の間に見られる樹木、低地のミズナラなどを。参加された方、ご協力をありがとうございました。

今回、実施して感じたことですが、4回通しての参加者は4名で、参加者が固定化されつつあります。自然に触れ、学ぶこともできる取り組みですので、実施する以上は参加者の多い方がより有益です。今後はホームページなども利用して一般の参加者を多く募ってはどうかと思いますがどうでしょうか。会員の意見をお聞かせください。また、研修したい内容があれば、ぜひ要望を連絡ください。それぞれが得意な分野での研修が組めればと思いますので、よろしくお願いします。

# 「緑の少年団 西部・南部地区交流会」

## ～滋賀県主催「木と森とのふれあいフェア」～

高橋　優

１１月８日(日)栗東市金勝の滋賀日産リーフの森では、第 24 回全日本リレーオリエンテーリング大会が開催され、全国から５００名近い選手が参加し山野を駆け巡る競走に汗を流していました。大会と同時開催されたイベントが滋賀県西部･南部森林整備事務所が主催した「木と森とのふれあいフェア」という木と森を感じてもらうイベントで、木工や木の玩具、里山体験・展示、森林活動体験など楽しいコーナーが設けられていました。

そんなイベント会場で開催されたのが「緑の少年団 西部・南部地区交流会」です。おもに西部南部地区から３つの緑の少年団、約２０名の団員、保護者の方が参加し、滋賀会の森林インストラクター３名が案内役を務めました。当日は強い雨で予定していた森林樹木観察はコースを変更し、簡単な説明にとどめましたが、ウッドキューブを使う木工や丸太切り体験、滋賀日産リーフの森でミニオリエンテーリングなど実施しできました。

ミニオリエンテーリングは大好評で、団員たちは雨の降る中、地図を見ながら靴や衣服を泥んこになって森の中のポイント探しに夢中になりました。各ポイントでは森林に因んだ２者択一のクイズが出されており、それぞれの答えに次のポイントが指定され、答えが間違えていたら元のポイントに戻らなければいけません。正しい答えを選びながら最終ゴールを目指すゲームです。各ポイントは地図上に示されており、地図を読み取る力も必要です。子供たちに森を案内するツールとして使えるゲーム（アウトドアスポーツ）だと思います。

***編集後記***

年末押し迫るなか、会報第 17 号（2015 年度上半期号）をようやくお届けします。早くから原稿を頂いた方にお礼を申し上げます。

この秋計画していた事業の「森とのふれあい学び塾」が中止になり、そのため掲載するトピックスが少ない会報となりました。事業に参加する会員も減ってきています。会報を通じて、滋賀会の活動を知っていただけたらと思います。また、何かトピックスがありましたら事務局まで教えていただけたら幸いです。

みなさま、良いお年をお迎えください。来年もよろしくお願いします。

（高橋）